



平成28年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
第69回全国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

男子		平成28年7月31日	14:30 開始
1回戦		県立総合体育館大アリーナ	D

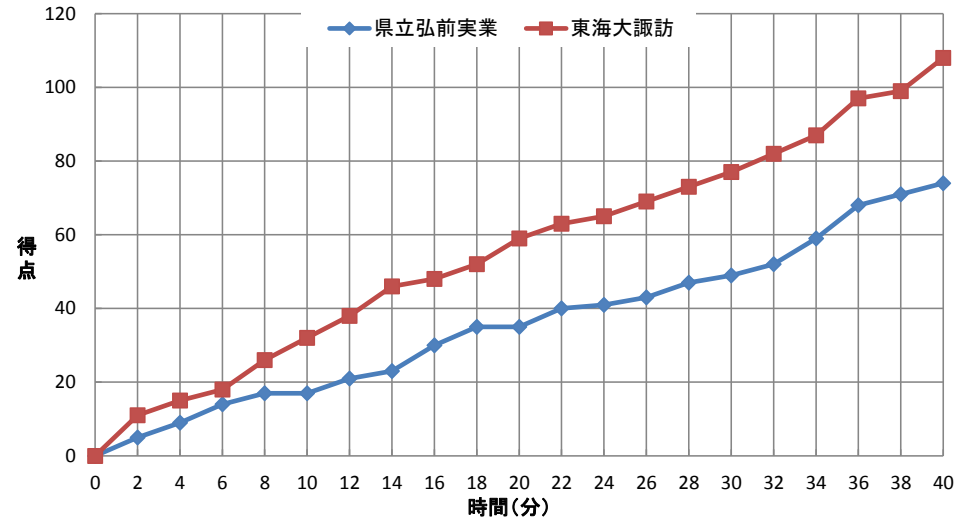
県立弘前実業	74	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>32</td></tr> <tr><td>18</td><td>2nd</td><td>27</td></tr> <tr><td>14</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>25</td><td>4th</td><td>31</td></tr> </table>	17	1st	32	18	2nd	27	14	3rd	18	25	4th	31	108	◎ 東海大諏訪
17	1st	32														
18	2nd	27														
14	3rd	18														
25	4th	31														
(青森県)				(長野県)												

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	古坂 北斗	3	1	0	0	4	4	守谷 悠	0	0	0	0	0
5	大藪 雄磨	20	5	1	3	3	5	須崎 虎太郎	25	0	11	3	1
6	木村 崇晴	-	-	-	-	-	* 6	園原 真樹	14	2	4	0	0
* 7	三浦 諒大	8	2	1	0	3	* 7	竹田 寛人	18	0	8	2	1
* 8	小山内 勇太	15	0	7	1	4	8	栗野 誉之	13	0	6	1	1
* 9	菊地 勇大	12	1	2	5	4	9	手塚 太一郎	0	0	0	0	0
10	小田桐 蒼	7	1	2	0	1	* 10	張 正亮	10	0	5	0	0
11	唐牛 秀人	0	0	0	0	0	11	佐伯 大全	6	0	2	2	1
12	小山内 尚希	0	0	0	0	0	12	武原 諒次	1	0	0	1	2
13	市川 雄大	0	0	0	0	0	* 13	北村 孝太	2	0	1	0	4
* 14	吉沢 俊輝	9	1	3	0	0	14	加藤 穂高	6	0	2	2	1
15	花田 太郎	0	0	0	0	1	* 15	寺澤 大夢	13	1	5	0	1
コーチ	奈良 元					0	コーチ	入野 貴幸					0
Aコーチ	高村 裕彦						Aコーチ	上條 駿					
合計		74	11	16	9	20	合計		108	3	44	11	12

主審: 笠島喜与都

副審: 寺田雄一

得点経過



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	12:05	33:23				
TeamB	14:49	19:39				

〔戦評〕
弘前実業#4、7、8、9、14、東海諏訪#6、7、10、13、15でゲームスタート。
第1P、両チームともオールコートマンツーマンディフェンスで激しく守り、相手のミスを誘う。東海諏訪は#6、#7の3Pシュートやドライブからの合わせでインサイド、アウトサイド両方を使い得点を重ね、先に試合のペースを掴む。弘前実業は巧みなパス回しから#4のポストプレー、#14のレイアップシュートなどで得点するが、固さからか3Pシュートがごとく外れ波に乗れない。一気に主導権を握りたい東海諏訪はディフェンスをオールコート1-1-2-1ゾーンプレスからのハーフコート2-3ゾーンに変更し、弘前実業のターンオーバーを誘発する。これが功を奏し速攻やゴール下のプレーで得点を伸ばした東海諏訪が15点差を付け、17対32で第1P終了。
第2P、弘前実業はオールコート2-2-1からのハーフコート2-3ゾーンを展開する。東海諏訪はこれを力強いドリブルで破ろうとするが、第1Pのように上手く攻めることができない。弘前実業は東海諏訪のオールコートプレスを攻略し始め、#5の3Pシュートをを中心に追撃したいがなかなかゴールが決まらない。逆に東海諏訪はディフェンスリバウンドから速攻で得点を重ね、35対59と点差を広げて第2P終了。
第3P、東海諏訪はオールメンバーチェンジにより運動量を保ちながらオールコートプレスを続ける。なんとか切り崩したい弘前実業だが、なかなかインサイドでのシュートチャンスが作れない。それでも弘前実業は#5の3Pシュートや#8の合わせなどで粘り強く得点していく。東海諏訪は弘前実業のオールコートゾーンプレスをかわし始め、#10や#15のポストアップで弘前実業の3-2ゾーンを上手く切り崩し、インサイドでの得点を重ねる。両チームともに粘り強さを見せたが、49対77で東海諏訪がさらに点差を広げ第3P終了。
第4P、弘前実業はオールコートプレスを1-1-2-1に、ハーフコートゾーンを1-3-1に変更し、激しいプレッシャーをかけながら東海諏訪のポストアップからのプレーを防ぎに行く。東海諏訪は#15のミドルシュートや、#5のゴール下のシュートなどで粘り強く得点していく。残り時間6分37秒、56対85となった所で勝負を諦めない弘前実業はタイムアウトを取る。タイムアウト後、弘前実業は3Pシュート中心のオフェンスに切り替える。ドライブからのパスアウトで積極的にシュートチャンスを作り、#7や#4、#9が次々に3Pシュートを決める。しかし、東海諏訪は速いオフェンスからの#7ミドルシュートや#15のゴール下などで得点を重ね、点差を縮めさせない。結果74対108で東海諏訪が勝利し、2回戦に駒を進めた。両チームとも1ゲーム終始走り切った、見ごたえのあるゲームであった。敗れはしたものの、最後まで諦めない姿勢を見せた、弘前実業の健闘を称えたい。

戦評: 松崎建詩

記録: 海田高校